

メロン栽培

品種

料理ヒント&効能

生でサラダ、浅漬け、和え物にするのが一番

中国薬膳では身体の熱を冷まし、のどの渇きを鎮め、手足のむくみを改善するなどの効果があるとされている。

地ごしらえ



粗起こし

- ① pH調整
 - 堆肥 1m²当たり3~4Kg
 - 苦土石灰 1m²当たり120g
- ② 元肥
 - 化成肥料 (N:P:K=8:8:8) 1m²当たり150~200g (2分の1全層、2分の1心肥)

ポイント 地ごしらえ、植え付け

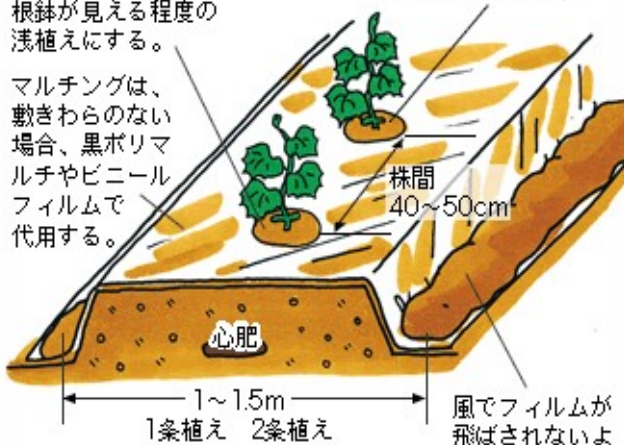
夏秋キュウリは、根が粗（あら）く浅根性であり酸性土も嫌うので、粗起こしの時に堆肥（たいひ）と苦土石灰を施し、必ず土の pH 調整を行います。その後、元肥を全層と心肥とに分けて施し、幅1~1.5mの畝を立てます。雑草防除と地温向上のためにマルチングをする時は、一雨降って土が湿っている時に行います。

植え付ける際は、畝幅1mなら株間40~50cmの1条植え、1.5mなら2条植えにします。少量の苗なら購入した方が得策ですが、接ぎ木苗があれば利用したいものです。

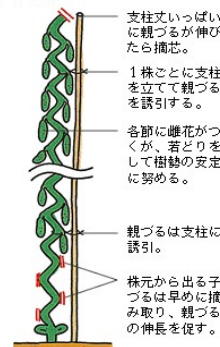
植え付け

根鉢が見える程度の浅植えにする。

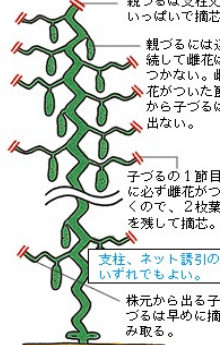
マルチングは、敷きわらのない場合、黒ポリマルチやビニールフィルムで代用する。



(1) 節成り型

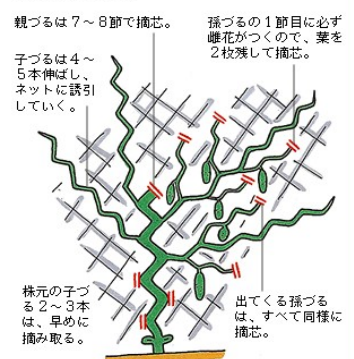


(2) 中間型



支柱立て・整枝・誘引

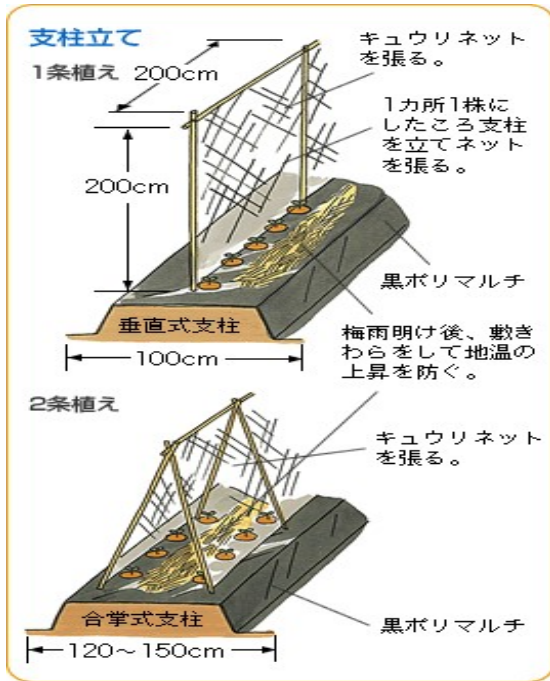
(3) 飛び節成り型



キュウリの支柱誘引。



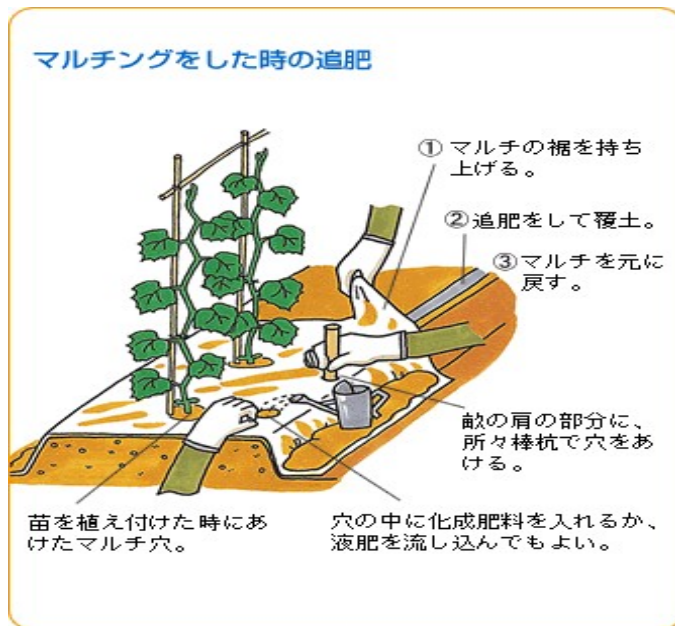
ネット誘引。つるがネットの上まで伸びたら摘芯する。



ポイント 支柱立て、整枝

節成り型の品種なら、株ごとに支柱を立てて親づるをそれに誘引するか、キュウリネットを張り、それにつるをからませていきます。飛び節成り型や中間型の品種なら、キュウリネットを利用して整枝するとよいでしょう。

中間型では、親づるに5~6節以上あけて雌花をつけ、雄花のついた節からは必ず子づるが発生します。子づるの1節目には必ず雌花をつけるので、雌花から葉を2枚残して摘芯し、上位の節から子づるが発生するのを促します。親づるは、支柱の高さいっぱい伸びたら摘芯します。



ポイント 追肥

植え付け後、半月おきを目安に3回追肥をします。1回につき、化成肥料1m²当たり60~70gを施します。

マルチングをしていない時は、梅雨前に株元へわらや枯れ草を敷き、泥のはね返りを防いで病害発生を予防します。梅雨明け後は畝全体に敷いて、地温の上昇と乾燥を和らげてやります。

ポイント 収穫

キュウリは果実の肥大速度が速く、収穫が遅れると大きくなりすぎるだけでなく、次の果実の肥大を妨げます。樹勢を保つためにも、若どりを心掛けましょう。

葉が混んできたら向こう側が透けてみえる程度に葉をとり、風通しを良くする。

保存ヒント

胡瓜の保存は10℃前後が適温なのでポリ袋に入れ、冷蔵庫に成り口を上にして立てて保存する。ピクルスにしたり、塩漬け、薄切りにして冷凍しても良い。冷凍する場合は薄輪切りにした胡瓜に塩を薄くふりしんなりしたら水気を軽く絞り、ポリ袋に平に詰め、空気を抜いて閉じ、冷蔵庫へ。自然解凍し、そのまま和え物、サラダに利用できて便利です。保存期間は2~3ヶ月程度。